



建築技術性能証明書

技術名称： 颯工法
—先端翼付き鋼管を用いた杭状地盤補強工法—

申込者： 株式会社創和 代表取締役 齋藤 孝
神奈川県相模原市中央区相生 3 丁目 11 番地 16 号
株式会社日建コンサルティング 代表取締役 渡邊 祐士
愛知県小牧市堀の内 5 丁目 63 番地
株式会社ティー・ツー 代表取締役 神田 宏
千葉県市川市妙典 3 丁目 5 番地 5 号
有限会社テクニカル九州 代表取締役 藤田 貴史
福岡県朝倉市中原 172 番地
誠信 GLOCAL 株式会社 代表取締役 松本 陽一
愛知県名古屋市中区錦 3 丁目 23 番地 18 号 ニューサカエビル 9 階
株式会社刃 代表取締役 西野 康宏
東京都江戸川区上篠崎 4 丁目 30 番 9 号 ディアコート篠崎 1 階

技術概要： 本技術は、鋼管（以降、軸部鋼管と称す）に先端翼を有する先端部を取り付け、この軸部鋼管を回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭状地盤補強材（以降、補強材と称す）として利用する技術である。補強材仕様には先端翼、組立板および掘削刃を鋳鋼で一体製作した先端部を軸部鋼管に溶接する「鋳鋼タイプ（ストレートタイプ、テーパタイプ）」と、先端部鋼管に先端翼、組立板および掘削刃を溶接して製作した先端部を鋼管に溶接する「鋼材タイプ（先端部品ストレートタイプと先端部品変径タイプ）」がある。なお、本工法による補強地盤の支持力は、基礎底面下の地盤の支持力を無視して補強材の鉛直支持力のみを考慮することとしている。

開発趣旨： 本技術は、2 枚の先端翼はそれぞれが水平軸に対し 15° の勾配をもち、先端軸部鋼管の軸方向中心線よりも鋼管側面方向寄りの位置にて交差するように取り付けることで、回転貫入力を高め、施工性の改善を図っている。また、経済性の向上を意図して、鋳鋼テーパタイプおよび鋼材先端部品変径タイプは、軸部鋼管に先端軸部鋼管より 2 サイズまで細い鋼管を用いることを可能としている。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。なお、本証明の有効期間は、2029 年 4 月末日までとする。

2026 年 4 月 23 日 一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 川瀬 博

記

証明方法： 申込者より提出された下記の資料および施工試験の立会確認により性能証明を行った。

資料 1： 颯工法 性能証明のための説明資料

資料 2： 颯工法 設計・製造・施工基準

資料 3： 試験資料

資料 1 には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料 2 は、本技術の設計・製造・施工基準であり、適用範囲、使用材料、設計方法、補強材の製造・加工方法や管理基準、施工手順などが示されている。

資料 3 には、資料 1 で用いた個々の載荷試験結果報告書や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

証明内容： 本技術についての性能証明の内容は、単杭状の補強材の鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「颯工法 設計・製造・施工基準」に従って設計・施工された補強材の許容支持力を定める際に必要な地盤から定まる極限支持力は、同基準に定めるスクリュウウェイト貫入試験結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。